

変えよう！ 杉並区政

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり



予算に
反対
しました

児童館、保育園、学校… —子どもの居場所、行方が不安—

第1回定例会では「あんさんぶる荻窪」の財産交換問題(裏面参照)、区の非正規労働、民間委託の問題(右欄参照)のほか、以下の問題を指摘して予算に反対しました。

①児童館

杉並区は「児童館はすべて廃止する」方針です。今回の区議会では和泉児童館が廃止され(松尾ゆりは反対しました)、「子ども子育てプラザ」という乳幼児中心の施設に転換しました。今後、これまでのように小中高校生の受け入れが十分できるのか心配です。

②高円寺小中一貫校

1校の敷地に3つの学校を統合するという大変無茶な計画です。住民説明会では、なぜ環七沿いで一番環境の悪い高円寺中に建てるのか、なぜ南側に校舎を建て校庭が北側なのか、なぜ3校をいっしょにするのか、など疑問の声はつきず、説得力のある説明はなされませんでした。学校の建て替えは、杉一小、桃二小でも予定されていますが、どこも子どもの最善の環境を考えているとはどうも思えない計画です。

③図書館

杉並区は240万冊の本を所蔵、23区で1位です。



予算特別委員会で発言

しかし、区は今後、蔵書を30万冊も削減して図書館を縮小する計画であり、図書館サービスの低下が懸念されます。



善福寺川と桃二小の桜

④保育園

待機児童問題が深刻です。区も保育園をたくさん建てていますが、ハコ物を建てさえすればいいわけではありません。区は保育の質に十分対応できていません。区内でも虐待などの問題が指摘されることさえあります。また、認可園でも園庭がないのが普通のようになり、そこで育つ子どもたちのことを思うと胸が痛みます。区は独自の基準を設けて保育園の質を確保するため予算を使うべきです。

⑤特養ホーム

科学館跡地や荻窪税務署などに次々と特養建設が計画されていますが、区の北部に集中し、地域に偏りがあります。また、大型特養に収容するという考え方は時代遅れで、小規模施設や在宅サービスの充実にシフトしていくべきです。

⑥産業振興

地域の中小企業の多様な業種、それぞれに必要な支援があるはず。特に商店街振興は重要です。中でも商品券事業は必要だと思いますが、今年度は実現していません。

区の非正規労働

杉並区の業務は半分以上、非常勤(パートなど)や民間委託先の職員が担っています。予算特別委員会では、以下の問題を取り上げました。

地域区民センター 以前、委託事業者の倒産から賃金不払いが発生。その後も事業者が変わるたびに、雇用継続の問題などトラブルに。またパートの方は最低賃金の時給907円。複雑なPCシステムも使う仕事なのに低賃金すぎる。

資源回収車の事故 民間委託先の回収車の作業員が転落して重傷を負う事故が発生。作業に無理があるのでは。

学校司書 学校司書の全校配置は杉並区の自慢だが待遇はパート。雇用は1年契約で不安定。6年間の更新を終えて再受験した方が今年、半数近く不採用とされたことは問題。

さらに、今後の問題として、**国保年金課**が来年1月から民間委託されます。個人情報漏洩の危険性のほか、偽装請負の可能性など委託には無理があります。

区はこの10年間、職員を減らして人件費30億円を削減しましたが、その分、民間委託費は100億円増え、財政を圧迫しています。しかも賃金など待遇面の問題は事業者まかせで放置されています。

「あんさんぶる荻窪」の財産交換に反対しました



予算と並んで区議会の大きな焦点となったのは「あんさんぶる荻窪」と荻窪税務署の財産交換を認めるか否かでした。この計画は現に使っている施設どうしの交換という常識ではありえないトリッキーなものです。区民には大きな財政負担がのしかかります。問題点を整理すると、

で用意する」との文書を出していたが、このことは区民・区議会に隠されていた。十分に説明責任が果たされていない。

問題点1：最終決定ではない

交換相手の国（税務署）側は今、交換を決定するわけではなく、交換予定は2年後。そのときは不動産価格が変動するため再度区議会で議決が必要なので、今回は最終決定ではない。

問題点5：地域の声を無視

あんさんぶる交換についての説明会がこの2年半一度も開かれていない。児童館を廃止することへの反対は根強い。

問題点2：区にとって不利な交換

単純な交換ではなく、税務署の移転先を区の負担で用意するため、あんさんぶるの代わりに新庁舎を39億円も使って建てるなど、土地購入の場合と比べ、区の負担が大きすぎる。また、財産鑑定では、あんさんぶるの価値がざっくり2割引きにされていて不利な交換にされる恐れがある。

賛成した議員の責任は重大

本会議で私は継続審査を求める動議を出しましたが、賛成少数で否決。また、共産党の議員から記名投票の動議も出ましたが、これも否決。採決では私を含む3名の無所属と共産党の計9名以外の全員が賛成して議案は可決されました。区民に大きな負担を強いる本件を丸のみしてしまった賛成派の議員の責任はさきわめて重いといえます。

特養ホームを建てるには賃貸の方がお得

	<国有地のまま借りれば>	<区の財産交換計画では>
区の負担	ゼロ円	130億円*
特養ホーム	すぐ建てられる (2年後には入居可能)	税務署の移転などを待って建設 (入居は早くも5年後)
あんさんぶる・児童館	現状どおり存続	廃止される

問題点3：特養ホーム建設はもっと安くできる

特養ホーム建設だけが目標であれば、税務署の現地建て替え、残地を賃貸しての建設だと負担なく、早く建てられる（表参照）。

*①あんさんぶる荻窪と税務署の土地を交換 =43億円相当の土地・建物
②あんさんぶる内の施設移転先(複合施設)建設費=39億円
③学童クラブの移転先の桃二小改築 =45億円
①+②+③=130億円(区の借金になる!)

問題点4：経緯が隠されていた

区長は2010年に国に対して「税務署の新しい庁舎を区が無料

さらば、日米同盟 ～天木直人さん講演会～

元レバノン大使・外交評論家の天木直人さんをお招きして講演会を開きました。天木さんは、2003年、当時の小泉首相に対してイラク戦争反対の意見を送ったことから外務省を辞職されました。

講演では、「戦後の日本外交は、国連中心主義、日米同盟重視、アジア外交重視の3つの柱があったが、現在の日本外交は圧倒的に日米同盟重視。しかも軍事的色彩が強く、対米従属が強まっている。このことが日本の外交の幅をどんどん縮めていっている。安倍首相は日本を取り戻すと言っているが、実際にやっていることと全く矛盾している」と指摘、また、憲法九条については「日本にとって最強の外交手段、それをみすみす手放そうとしている」と述べられました。会場からは多数の質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。



科学館、ご苦労様でした

3月末で廃止された杉並区立科学館。3月19日・26日の2週連続で区民団体「杉並・科学を楽しむ会」による感謝イベントが開かれ、私も参加しました。19日には、「ニボシの解剖」や「水万華鏡づくり」、植物園探索、「今夜の星空+宇宙ビューワー」と多彩な講台の縣秀彦先生の講演「さようなら、杉並区立科学館」に約70人が参加しました。先生のお話には科学館への愛情があふれ、NASAとの共同事業などがあふれ、

ありがとう！杉並区立科学館

全国でも杉並でしかできない事業が行われてきたこと、また多くの人材を輩出した実績を改めて教えていただき、講演が終了してからも、参加者の皆さんは立ち去りがたい様子で、写真を取り、思い出を語っていました。あの美しいドームを持つ科学館は今年中に取り壊され、跡地には特養ホームが建設される計画です。科学館廃止も跡地利用も、利用者、区民には全く知らせないまま行政が一方的に決めてしまい、区議会の多数派も追随しました。全国でも有数の科学教育の拠点が消えました。しかし、新しい科学館を求めて活動していきたいと思えます。

